

【様式】 応募フォーム

応募フォーム
はこちら↓→



1 個人又はグループの情報

所属	塩尻市中学校	所属年数	2
※所属が市内の学校又は事業所以外の場合は塩尻市との関わり			
氏名 ※グループの場合は全員分	塩尻 花子、塩尻 太郎、塩尻 みらい		

<https://forms.gle/YenuVy1oS8a62yr56>

2 学習・探究・研究等のテーマ（課題）

テーマ （課題）	高齢者が重いごみ袋をごみステーションまで運ぶことに困っている現状を解決できるような解決策はないのか。
要旨	年末に祖母の家に行ったとき、玄関にごみ袋が置いてあった。なぜ玄関に置いてあるのかを尋ねてみると、ごみ袋は重いし、外は寒くて、道が凍っている場所があるからごみ袋をごみステーションまで運ぶのが大変だという回答があった。
※テーマ設定の理由や動機、目的、方法、考察、結論など	自分たちの地域を見ても、高齢者だけで住んでいる家が多く、また社会の授業で今後さらに少子高齢化になっていくことを学習し、祖母だけでなく自分の地域にも同じような困り感を感じている人が多いのではないかと考えた。 この探究学習では、実態を調査し、高齢者が抱えている課題を解決するための解決策を追求した。調査の結果、行政等による支援を頼るよりも、地域の中学生や高校生の力を借りる方が、効果的ではないかと結論づけた。

3 実践の概要（※これまでの実践とこれから予定している実践を記入してください。）

1	地域のごみ捨てのルールを自治体のホームページから情報収集したり、自治体の担当者に聞き取りを行ったりした。
2	収集した情報をもとに、仮説を立て、今後どのような順序で探究学習を進めるか計画を立てた。
3	今後、協力してほしい皆さんにわかりやすく説明し、協力を得ることができるよう探究学習の説明資料の作成やプレゼンの練習を行った。
4	地域の区長に探究学習の趣旨等を説明し、協力してくれそうな高齢者の自宅を教えてもらい、区長と一緒に高齢者宅に説明・現状の聞き取りをしに行った。
5	聞き取りをした情報を分析し、ごみ出しについて高齢者の方々が共通して困り感を感じてことと、個別に困り感を感じていることに整理した。
6	いくつか解決策のアイデアを出し合った。
7	ごみ収集を担当している方に高齢者宅まで収集をしに行ってもらうことは可能かどうかを尋ねてみたが、実現するには課題が多いことを教えてもらった。
8	さらにアイデア出しを行った。その中から登校する中学生や高校生の力を借りるというアイデアを選択し、可能性を探るため、中学校と高等学校にアンケートを実施させてもらえないか打診した。
9	協力してくださる学校で地域の高齢者の方の困り感を説明し、中学生・高校生がごみ出しを代わりにするというアイデアに賛成か（協力してくれるか）についてアンケートを実施した。

10	アンケート結果を分析し、実現可能な解決策について話し合い、最終案を作成した。
11	解決策を区長にプレゼンしに行き、今後地域として実施していけそうか話し合った。
12	
13	

4 実践の考察・成果・課題等

考察 学んだこと 身についた力 など	行政等の支援を頼るよりも、地域の中学生や高校生の登校にごみ出し制度をうまく組み込むのがよいという結果になった。 市役所に頼ればよいと少し人任せに考えていたが、地域をよくするのは自分たちであり、自分たちにもできることがあることに気づいた。 協力してくれる人が必要であったため、誰かに働きかける力や分かりやすく説明する力などが身についた。
もっと良くでき と感じたこと 今後チャレンジ してみたいこと など	高齢者の方々に説明する際に資料の文字が小さすぎたり、話すスピードが速すぎたりして、伝わりにくかったことがあったので、もう少し高齢者にも見やすく、分かりやすい説明を準備すれば良かった。 実際に制度を作り、実施してみることができなかったので、今後実際にやってみて、効果や課題などについて研究してみたい。

5 アピールポイント（※審査項目や特に工夫したことなどアピールしたいことを記入してください。）

主体性：身近である祖母が抱える課題であったので、自分事として捉えることができた。また、学校の授業で学習した少子高齢化の問題を踏まえて、自分たちが同じような立場になったときにも同じ課題に直面するのではないかと感じ、今から考えていかなければならないと感じた。 協働性：区長や高齢者の方々、学校の校長先生など多くの人と対話をしたり、協力したりすることができた。 探究性：最初に自分たちが考えた案はうまくいかなかったが、次のアイデアを考えて実現可能性を探ることができた。 社会性：地域が抱える問題や税金の問題などを理解し、そのうえでどのようにしていけば課題が解決されるのかを考えることができた。 創造性：ごみ収集を担当している人にやってもらおうという既存の制度の中で考えるのではなく、中学生や高校生の力を借りるという新たな制度を提案することができた。 中学生の力でできることは限られているかもしれないが、他人事だと思っていた地域の問題も中学生なりに解決策を考えることができるということに気づいた。様々な解決方法を考えるため、アイデア出しをした時にはグループ内だけではなく、友達や家族にも意見を聞いた。さらに出されたアイデアとアイデアを組み合わせたりして、多くの方法を考えることができた。
--

6 資料等（※実践が分かる資料等がある場合は PDF 形式で 1 つのファイルにまとめて添付してください。）